

【テーマ】

病棟内看護チームのチームワークが新人看護師の入職初期の臨床実践能力に及ぼす影響に関する研究

【目的】

病棟内看護チームのチームワークが、新人看護師の入職初期の臨床実践能力にどのように影響を及ぼしているかを実証的に検討することである。

【方法】

第1フェーズで質問紙調査、第2フェーズで面接調査をおこなう混合研究法とした。研究実施に同意を得た5病院に勤務する新人看護師とそのプリセプター各314名に対して無記名自記式質問紙調査を実施し、留め置き法で回収した。質問紙調査で得られたデータを分析後、その結果を補足的に説明するため質問紙調査実施病院のうち4施設に勤務する中堅看護師6名に対し半構造化面接調査を実施した。質問紙調査の分析は「チームワーク」を独立変数、「新人看護師臨床実践能力」の12の下位尺度それぞれを従属変数とした階層的重回帰分析をおこなった。その後、質問紙調査の結果を説明するような発話データを抽出した。本研究は、A大学研究倫理審査委員会、研究対象施設1施設の倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

質問紙調査では新人看護師262名（有効回答率83.4%）、プリセプター267名（有効回答率85.0%）から有効回答を得た。新人看護師臨床実践能力の12の下位尺度のうち、基本姿勢と態度における「看護師としての自覚と責任ある行動」が「知識と情報の共有」から正の影響を、「患者・家族の理解と支援」が「職務志向性」から正の影響を、「モニタリングと相互調整」から負の影響を、「組織理解と適切な行動」が「対人志向性」から正の影響を、技術的側面における「日常生活援助・活動援助」、「生体機能管理・症状管理」、「安全確保」、「与薬」が「モニタリングと相互調整」から正の影響を、管理的側面における「物品・コスト管理」が「モニタリングと相互調整」から正の影響を、「業務管理」が「モニタリングと相互調整」から正の影響を、「職務の分析と明確化」から負の影響を、「情報・安全管理」が「モニタリングと相互調整」、「知識と情報の共有」から正の影響を受けていた。これらの結果について、面接調査でも解釈を拓けるような発話を得た。

【考察】

チームワークは新人看護師臨床実践能力に影響を及ぼしていることが明らかになった。チームワークの効果を象徴していたのは「モニタリングと相互調整」の効果であった。新人看護師や支援者の業務をモニタリングし、調整するチームワークが新人看護師や支援者に時間的、精神的余裕を与え、新人看護師の技術獲得に有効であることが示唆された。

*以下に掲載

保田江美・中原淳（2014）病棟内看護チームのチームワークが新人看護師の入職初期の臨床実践能力に及ぼす影響に関する研究 第18回日本看護管理学会学術集会抄録集, 209.